

《薬局サーベイランスコメント》

『第4週（1月25日～31日）の推定患者数は70万人を突破。第5週かまたは第6週が流行のピークとなる可能性が高い』

2016年2月2日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) からの2016年第4週（1月25日～31日）のインフルエンザの推定患者数は4週連続で増加し、前週（第3週）の値（351,423）の2倍以上の741,778となりました（図1）。また、第5週（2月1日～7日）の月曜日（2月1日）の推定患者数は251,042と今シーズンのこれまでの最高値の2倍近い値となっており、第5週は更に患者数が増加し、1週間当たりの推定患者数が100万人を超える可能性が高いと予想されます。各都道府県別の第4週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、北海道、新潟県、岐阜県、茨城県、福井県、栃木県、青森県、東京都、神奈川県、広島県、大分県、愛知県の順となっており、関東、中部の地域で全国平均値を上回っている都県が目立ちます。また、47都道府県全てで前週よりも患者数の増加が見られています。

2015年第36週から2016年第4週までの累積の推定患者数は、1,458,687(1,459,000)であり、年齢群別では5～9歳（21.4%）、30～39歳（13.5%）、40～49歳（13.5%）、10～14歳（11.5%）、0～4歳（10.9%）、20～29歳（8.0%）、50～59歳（7.7%）、15～19歳（5.7%）の順となっています（図2）。全年齢群で患者数の増加が見られますが、特に小児の年齢層での患者数の増加は目立っていて、第4週だけで見ると14歳以下の年齢群の割合は48.9%（推定患者数362,867）と半数近くを占めています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（660検体解析）は、A/H1pdm 47.0%、B型 27.9%、A/H3（A香港）亜型 25.2%の順となっています（図3）。さらに、直近の5週間（2015年第53週～2016年第4週；これまでに327検体検出報告）では、A/H1pdm 64.2%、B型 27.5%、A/H3（A香港）亜型 8.3%の順となっていて、現在の本格的な流行はA/H1pdmとB型インフルエンザの混合流行であると考えられます。

2015/2016 シーズンのインフルエンザの推定患者数は1月に入って急増し、第4週より流行は本格化して、前述したように第5週の週当たりの推定患者数は100万人以上となることが予想されます。おそらく今週かまたは来週（第5週かまたは第6週）が今シーズンのインフルエンザの流行のピークとなる可能性が高いと思われます。また、現時点で既にB型インフルエンザも流行していることから、流行のピークを過ぎてもインフルエンザの本格的な流行は長引く可能性があります。今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

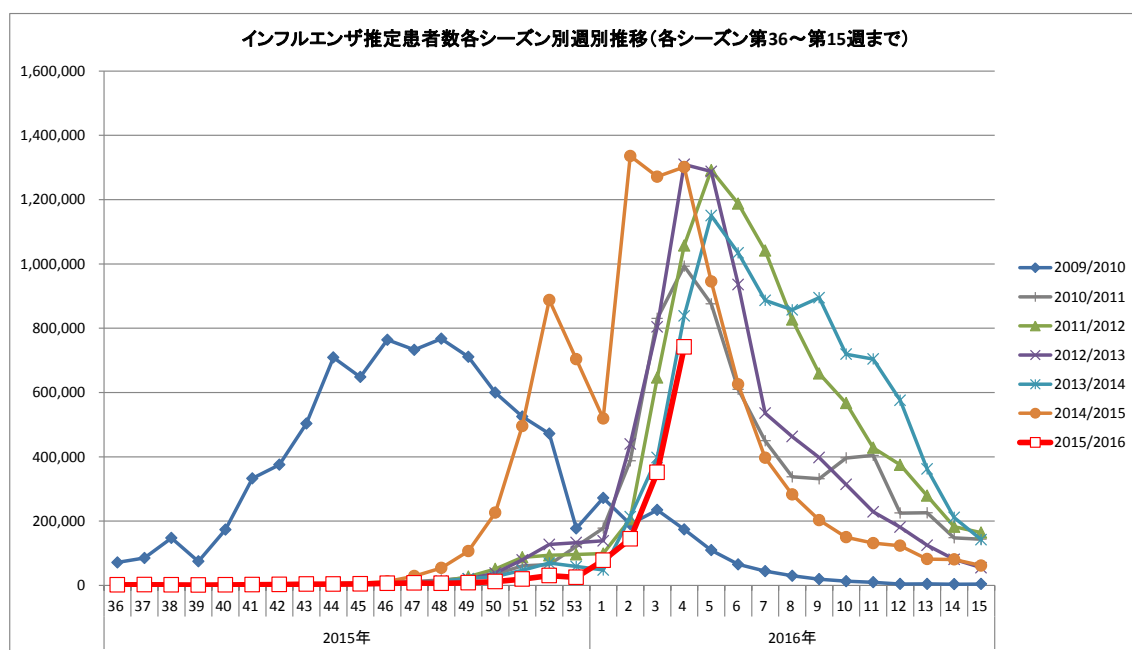


図1. 過去5シーズンと今シーズン（2015/2016シーズン）の第36～第15週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

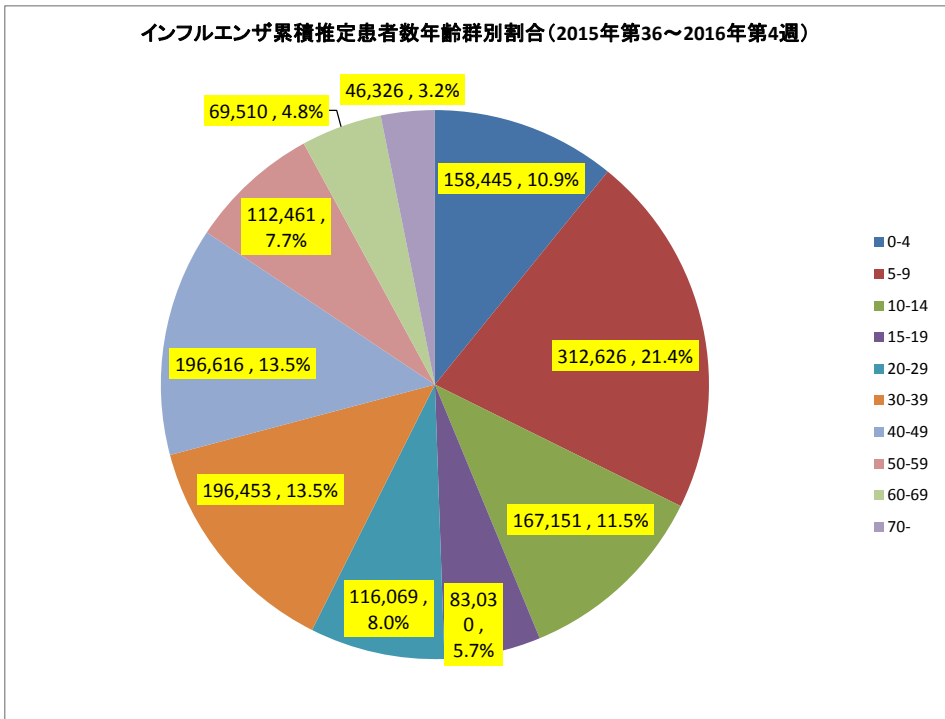


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2015 年第 36~2016 年第 4 週、累積推定患者数= 1,459,000)

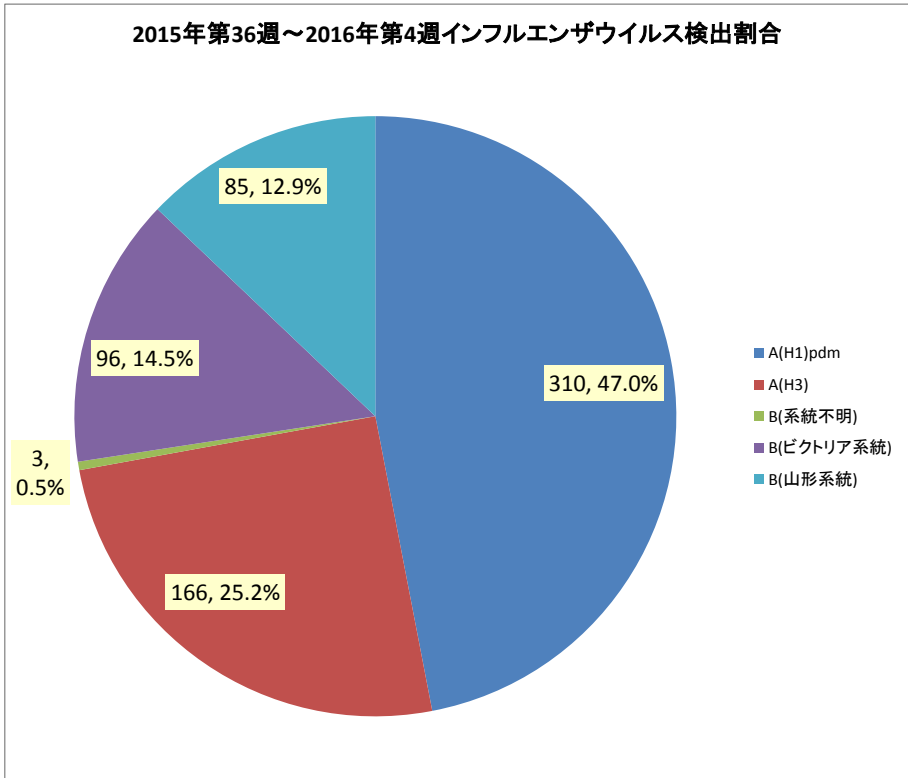


図 3. 2015 年第 36~2016 年第 4 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=660)